

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	株式会社劇団風の子中部
公演団体名	劇団風の子中部

内容
<p>【出演場面】 劇の最後のシーン1か所です。事前に5チームに分かれてもらい、劇団のキャスト5名と一緒に、最後の歌「おれたちに明日はあるのだ！」を簡単な振付で歌っていただきます。そして、歌の中のフレーズ「子どもだって悩むのさ」の箇所、それぞれチーム毎に、“子どもの主張”をしてもらいたと思います。</p> <p>◇事前に各校に作品の概要がわかるDVDと楽曲のCDと楽譜、ワークショップの内容、目的等をまとめたものを送付します。 ◇事前に出演者を決めておいてもらいます。最大30名。応相談。 ◇出演児童には上演作品のおおまかな内容の説明をし、歌と振付の練習、“子どもの主張”の内容をディスカッションしてもらいます。 ◇本公演では実際に舞台上に立ち、全児童に観てもらいますので、ワークショップ後も、本番に向けて練習をしておいてください。</p>

タイムスケジュール（標準）
3・4校時の場合 9:30— 10:30~11:15—休憩—11:20~12:05 学校着・準備 WS① WS② *基本、WSには2時限必要です。詳細時間は学校毎の授業時間の設定に合わせてます。 WS①：挨拶、ウォーミングアップ。出演箇所の説明、練習。 WS②：全員で練習の成果を発表。お互いに見合う。テーマの説明、ディスカッション。 本公演に向けての会場下見、打合せはWS前後に、学校の希望の時間に合わせ行います。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
3名（講師2名、助手1名）

学校における事前指導
◇事前にお送りしたCDと楽譜を元に、歌を覚えておいてください。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	株式会社劇団風の子中部
公演団体名	劇団風の子中部

演目
「ギャング・エイジ」 【スタッフ】 原作／阿部夏丸 脚色／いずみ凜 演出／中島研 音楽／曲尾友克 制作／西川典之 【キャスト】 井野口祥平・榎田大介・木村知代・安井萌々香・石井貴大（6、7月）神田純平（9～12月） 上演時間 75分（休憩なし）

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
6名（キャスト5名、スタッフ1名）

タイムスケジュール（標準）
7：00—10：30—（昼食）—13：20—13：30—14：45—15：00—15：20—17：00
設営 リハ-ル 入場 開演 終演 終了 撤去開始 撤去完了
↑ ↑
児童参加 児童出演

実施校への協力依頼人員
特にありません。

演目解説

(あらすじ)

主人公エイジは、元気で人気者な小学四年生。

お笑い好きのタカヒロや優等生のミサキ、虫が好きになちよっと変わったココロ、ユニークな同級生たちと毎日を過ごしていた。

そんなある日、偶然が重なり、突然エイジは「らんぼうもの」のレッテルを貼られてしまう。どうしていいかわからないエイジは学校を逃げ出し、中学生のイサオと出会う。イサオは「ギャング」という言葉をエイジに教えてくれた。

「弱者いじめはダメだ。迷惑たれながす奴もだめだ。カッコいいギャングになるんだ」と語るイサオ。

学校で突然「らんぼうもの」になってしまったエイジ。枠に当てはめられるなら、いっそ自分から枠を飛び出してしまったら…?

エイジは決めた。目指すは〈カッコいいギャング!〉

タカヒロがピンチの事態に、ココロの機転とエイジの行動力で乗り切り、それをきっかけに、ココロのでっかい絵を描きたいという夢を知る二人。ココロの夢を叶えるために、カッコいいギャングになるために、三人の作戦会議が始まった。

(みどころ)

5人の演者が舞台空間を縦横無尽に駆け回るエネルギッシュな表現。ブルースハーブ(ハモニカ)の生演奏と音響効果による迫力あるサウンド。カラフルな枠を使った舞台表現。そして、原作の世界観を踏襲しながら、現代の“リアルな子どもたち”の心情が吐露されたような台詞の数々に、共感する子どもたちの感想も多数寄せられています。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

【出演場面】主人公たち出演者とともに児童出演参加。劇の最後のシーン1か所です。事前に5チームに分かれてもらい、劇団のキャスト5名と一緒に、最後の歌「おれたちに明日はあるのだ!」を簡単な振付で歌ってもらいます。そして、歌の中のフレーズ「子どもだって悩むのさ」の箇所で、それぞれチーム毎に、“子どもの主張”をしてもらいたいと思います。

・子どもたちが、緊張感で表現できなくなるような形にならないように、リハーサルでは、具体的に子どもたちの心と体を解放できるような言葉かけや開放感のある空間づくりに努めます。

・コロナ対策の観点からワークショップ、本番ともに内容の変更希望がある場合、実際に触れあうような内容のものではなく、ディスカッションを中心にした内容に切り替え、児童から出てきた言葉を劇団キャストが表現するような演出に変更します。

・もし、事前ワークショップが出来なかった場合、また本公演の当日になって出演が難しくなった場合、本公演鑑賞後のフォローアップ・ワークを考えています。感想を出し合ったりしながら、芝居の内容を改めて振り返り、理解を深めるようなワークショップにしたいと考えています。

・希望があれば、退場時に舞台裏を見学する、バックステージツアーも可能です。

児童生徒とのふれあい

出演シーンは、主人公エイジをはじめ5人の演者たちと一緒に歌い、踊ります。

・入場の誘導は先生と綿密に打ち合わせを行い、基本、学校にお任せします。客席は密にならないよう、30 cm四方のマットを間隔をあけて配置し、誘導がスムーズになるよう工夫します。

・退場時の送り出しは通常であれば握手・ハイタッチ等していましたが、舞台上から距離を取り、手を振る、ブルースハープの演奏等をします。もしくは舞台裏で控えるようにします。